

皆さん、こんにちは。今年は66名の方々から193点の応募をいただきました。今年の作品は特に思いが強く込められている作品ばかりで選考は難航いたしました。その中で“観光”、そして“再発見”という観点から鹿沼らしさを感じられる作品を優先して選ばせていただきました。年齢層については10代の方からの応募がありました。また40歳代、50歳代の女性の方の応募も増えました。応募された方々の世代が広がったことは大変喜ばしいことだと思います。

昨今通常のデジタルカメラだけでなくさまざまな機器が開発され、写真は気軽に押せば写る時代へと移り変わっています。デジタルカメラだけでなくスマートフォンにもカメラが搭載されていて、その画像をプリントすることももちろんできます。スマートフォンの画像をプリントした時の画質もかなり良くなりました。いつも携帯しているのでどこでも撮ることができるのです。そのことが逆にどの場所で何をどのように表現するか、またその写真をどう発表するのか、撮る人の真価が問われる時代になってきました。写真は人と人を結ぶコミュニケーションのツールです。写真をプリントして発表することによりぜひ幅広い人たちとの交流を深めていってほしいと思います。

今回、イチゴの応募作品が1点もなくそのことが審査会で話題にのぼりました。栃木県が日本一の生産量を誇るイチゴ、観光や地域にとってとても大切な農産物です。観光協会と一緒に出会いの森いちご園を視察させていただいた折りの一枚を参考出品いたします。これからこの鹿沼の地でイチゴが実り、皆が笑顔になりますこと、その一期一会の瞬間がシャッターチャンス繋がりますことを、心より祈念いたしております。選ばれなかった写真が決してダメな写真ということではありません。既存の伝統行事だけでなく、当たり前の中にもかけがえのない決定的瞬間があり、再発見することはたくさんあると思います。のびのびと思いのままに写真を楽しんでください。また来年も多くの新しい鹿沼の写真、また鹿沼を訪れたいと思える写真に出会えることを審査員一同楽しみにしております。

公益社団法人日本写真家協会会員

2025(第22回)鹿沼市再発見観光写真コンクール審査員長 太田有美子

1. 推薦 鹿沼市長賞 「秋の大収穫」 (草久) 堂前 勝雄



肥沃な大地の上に、掘り起こされた蒟蒻芋が勢揃いして並んでいます。手慣れた手つきで作業する人、しゃがんで掘り起こす作業をしている人の姿、まさに今が収穫のとき、喜びの瞬間です。そこを「秋の大収穫」と気持ちのこもったタイトルにした点に撮影者の喜びも伝わってきます。食文化を次世代に伝える貴重な記録です。蒟蒻の大収穫だけでなく心をも豊かにしてくれる大傑作の一枚で、満場一致で今回の推薦となりました。

2. 特選 鹿沼秋まつり実行委員会会長賞 「勢揃い」{古峯原宮通り(お祭りロード)} 佐藤 早苗



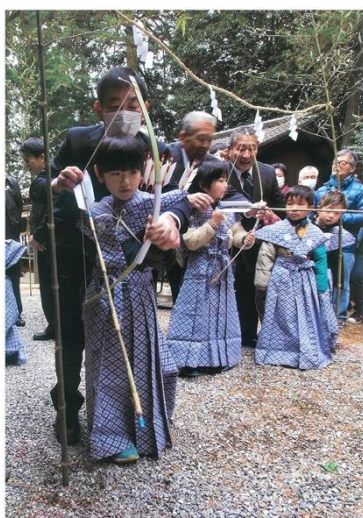
祭りの写真は人物に目が行きがちで手前の手古舞の方々を正面から撮るケースが多いです。しかし祭りの主役は屋台です。その屋台がたくさん並んでいるところに感動があり斜め45度の位置から屋台が並んでいるところを切り取りました。まさに勢揃いというタイトル通りの一枚になりました。毎年祭りの仕立ても変わります。祭りを目にしたときの素直な感動が伝わる一枚で特選となりました。

3. 特選 鹿沼市観光協会会長賞 「きびがら細工」(鹿沼市内) 篠崎 勤



この写真を一見したとき何を制作されているのかなと疑問に思いました。タイトルを拝見してそれがわかりました。今年は午年です。このような工芸品を制作する作業シーンの記録はとても貴重です。まさに鹿沼を再発見する素晴らしい一枚です。この一枚は人物が主役になっていますが画面の左下にある馬を主役とした一枚も見なかったです。きびがら細工の工房をぜひ訪れてみたいと思わせてくれる素晴らしい一枚です。

4. 準特選 鹿沼市市議会議長賞 「日の出祭り」(生子神社) 福田 信夫



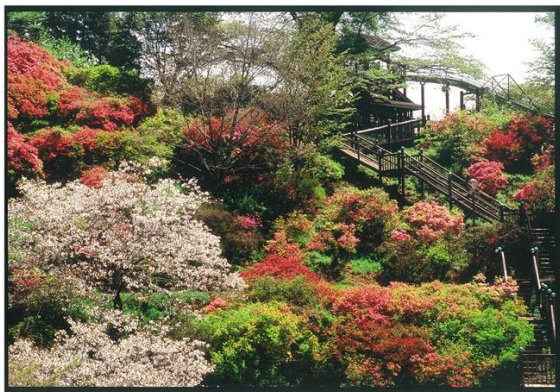
なんとも微笑しい写真です。神事後の弓取り式でしょうか。生活スタイルが洋式化する中でこのように地域の男の子たちが和装で揃って行事参加することを見かけなくなりました。無形文化財の価値はその伝統を受け継ぎ、初めて保持していくこととなります。子供たちの心にもこの日のことは深く記憶に刻まれることと思います。少子化の中、祭りはまさに担い手を必要としています。鹿沼だけでなく日本全国に発信したい貴重な記録の一枚です。

5. 準特選 鹿沼商工会議所会頭賞 「最高潮」(鹿沼市街地) 長尾 元信



祭りを上から俯瞰する抜群の位置取りで撮られたこの一枚、撮り手の読みが光ります。そしてまさに最高潮というタイトル通り、祭りが今まさにその瞬間を迎えていることが一見して分かる写真になっています。毎年の五穀豊穡を祈念するとともにコロナ禍が収まり、私たちがこうしてひとつの輪になるような形で一帯になれることを素直に喜びたいと思います。

6. 準特選 栗野商工会会長賞 「花の共演」(あわの城山公園) 海老沼 清一郎



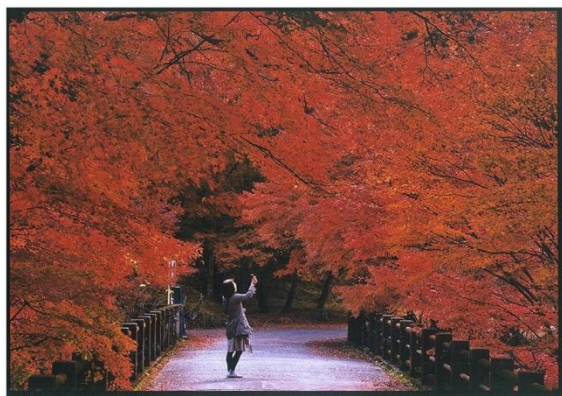
地球温暖化が叫ばれる今、花が一斉に開花することが少なくなり最盛期の写真が撮りにくくなってきています。特にツツジの花は雨に花びら打たれると花びらの色が褪色しやすいのが難点です。その環境の中でこの一枚はツツジの見頃を的確に捉えています。この遊歩道(木道)に、もし誰か歩いている人がいたらどうだろう、またいつか私もここを歩いてみたいと思わせてくれる一枚です。

7. 準特選 鹿沼市教育長賞「はじめての桜道」(出会いの森総合公園) 中島 成子



柔らかい光が降り注ぐ日、最高のお花見日和だったのでですね。手を繋ぐ親子、奥にまた別の散歩人がいて、視線がそちらの方を見えています。かけがえないシャッターチャンスをきちんと捉え、歌が聞こえてきそうな素晴らしい写真です。世界が平和でこれからも永遠に桜の咲く穏やかな散歩道であり続けることを願っています。心温まる一枚を見せてくれたことに心より感謝いたします。

8. 準特選 鹿沼市再発見観光写真コンクール審査委員長賞「自然を織りなす美」(大芦溪谷 白井平橋) 並木 成夫



全体が紅葉しアーチのようになっているフォトジェニックなこの一枚に真っ先に目がいきました。橋の上でスマートフォンをかざす女性の立ち位置がベストポジションで、一瞬のシャッターチャンスを実感にものにしていきます。タイトルも人物本位の直接的なものでなく大芦溪谷全体を感じさせてくれるよいタイトルだと思います。この姿勢をお手本に日本全国の”織りなす美”を感じていきたいと思っています。

9. 準特選 鹿沼ケーブルテレビ賞「大丈夫ママだよ」(生子神社) 福田 一男



生子神社の泣き相撲ワンシーンですね。獅子のお面が迫ってきてギャン泣きが聞こえてくるような臨場感のある一枚です。たくさんの方が参加される祭りの流れの中で、撮影する位置取りが難しいとは思いますが、ママが主役のタイトルになっていますので、もう人物全体が画面に入っているのもよかったですのではないのでしょうか。画面周辺に少し余裕がほしかったと思いました。

10. 準特選 栃木県カメラ商組合長賞「二人の世界ファンタジー」(まちなか 新・鹿沼宿) 児山 郁恵



LED 照明が普及しライトアップイベントが各地で盛んに行われるようになりました。まちなか 新・鹿沼宿の芝生広場は、決して広い場所ではないですがそんな場所であっても、イルミネーションの装飾が施されていると私たちが別空間へと誘ってくれます。人物が一人ではなくふたりで楽しく語らっているところが良いと感じました。楽しい会話が聞こえてきそうな心ほっとする印象的写真になりました。

参考出品

「真っ赤になあれ」（出会いの森いちご園） 太田有美子

ある日、観光協会の方に鹿沼で行ってみたい場所がありますかと尋ねられたので、いちごが成っているところを案内していただけないですかと答えました。それならすぐ近くにありますがということで出会いの森いちご園に出向きました。ハウスの中は暖かくこれから赤くなるいちごがたくさん実っていました。白い花には蜂たちもやってきてそれぞれの果たす役割に命の循環を感じました。